

日本臨床外科学会 国内外科研修報告

順天堂大学医学部附属順天堂医院呼吸器外科での研修を終えて

高松赤十字病院胸部・乳腺外科

山本 清成

この度、2024年度日本臨床外科学会国内外科研修制度に則り、順天堂大学医学部附属順天堂医院呼吸器外科にて、令和6年12月2日から12月13日までの2週間、国内研修をさせていただきました。

私は2016年に鳥取大学を卒業し、故郷の四国で勤務することを決め、縁あって徳島大学胸部・内分泌腫瘍外科に入局いたしました。現在は医局関連施設である高松赤十字病院にて勤務しております。私の所属する施設では、姫路医療センター呼吸器センター長であられた宮本好博先生の考案された、3portal VATSに感銘を受け、その教えに則り日々の研鑽を積んでおります。ロボット支援手術の普及、肺区域切除への標準術式の移行、免疫チェックポイント阻害薬併用術前化学療法への導入など、肺癌治療の変遷は目覚ましく、いかなる症例に対しても安全に、かつ効率的に行う手術手技の取得が必要と考えました。しかし、恥ずかしながら拡大手術や開胸手術の経験が希薄であり、時に致命的となる術中出血への対応能力も不十分であります。順天堂医院は、ロボット支援での複雑区域切除や開胸での高難易度手術を含め、年間700例以上の手術をこなす日本有数の病院であり、自施設では決して得られない経験を積むべく、世界で活躍される鈴木健司先生のもとでの研修を希望いたしました。

順天堂医院の術前カンファレンスは週2回、早朝より始まります。私の他に海外からの留学生や研修医、医学実習生も参加しておりました。各グループの若手スタッフが要点をまとめた資料を配布し、スピーディーにプレゼンテーションします。症例数も去ることながら、日本全国・海外から紹介された、いわゆる手術困難症例の治療方針を淡々と提示する光景に驚きを隠せませんでした。もちろん上位スタッフからの「学会発表を常に意識する」ことを前提とした熱い指導の賜物と拝見しましたが、controversialな症例を論理的に話し合い、治療方針を最終決定していくカンファレンスの質の高さに感銘を受けました。

火曜日・金曜日は特に手術が多い日で、1日に6件もの手術をこなしておられました。日頃より鈴木先生の手術動画を拝見しておりましたが、この度は各症例についての解説を頂きながら、間近で卓越した手技を見学することができました。「正しい層で剥離する」というシンプルな教えの奥深さを改めて実感いたしました。最も感銘を受けたのが、左手の鑷子もしくはカディエールでの繊細な把持、把持する場所と牽引の方向の正確さ、それによって生まれる剥離効率の良さであります。最短最速となる手数の少なさがこれから生まれます。思わずため息が出るほど美しい手技であり、魅入り過ぎて知らぬ間に自身の左手が動いてしまう程でありました。

開胸手術には助手として参加させて頂き、順天堂医院にて定型化された、非常にスピーディーな開胸手技を学びました。緊急事態にいかに対応するか、今自身に最も必要な知識・技術であると自覚しておりますが、スタッフの皆様は共通認識として安心・安全を重視し、すべてに理由を持ってして、皮膚切開線、肋骨切断部、開胸創の大きさを定めていました。このような理念が一貫しているからこそ、他病院が切除不可能と判断した症例においても、必勝法をもって真っ向勝負ができるのだと、巨大な前縦隔腫瘍の完全切除を目の当たりにして確信いたしました。

若手・中堅スタッフに対しては効率的な手術手技だけでなく、患者と術者、それぞれの安全を確保するための手技について、熱のこもった指導がありました。厳しい現場でこれだけのことをこなすスタッフ達が大成しないはずがない、と感銘を受けると同時に、自らも身が引き締まる思いがいたしました。

あっという間の2週間でした。自施設と異なる術式やハイレベルな手技に触れ、自身を見直せたとともに、目標とすべきものが明確となった有益な機会となりました。鈴木先生は「大事なことは体力と英語力」と繰り返しおっしゃっておいりました。私なりに「行動することで学び、世界へ発せよ」と解釈いたします。人を魅了する技術は人を集め、われわれ地方の外科医師不足解消の糸口ともなります。一流から多くを学び、将来は自身の技術を世界へ発せられるように、これからも日々精進して参ります。

最後となりましたが、この度は大変貴重な機会を与えてくださいました、日本臨床外科学会の万代恭嗣会長、国内外科研修委員会の高山忠利委員長、日本臨床外科学会香川県支部の岡野圭一支部長に、深く御礼申し上げます。そして、今回の研修にあたり快く受け入れてくださいました、順天堂医院呼吸器外科教授の鈴木健司先生、研修担当をいただきました松永健志先生をはじめとした同医局の先生方、手術室スタッフの皆様、研修に関する事項を細やかに指示下さいました医局秘書の山賀春枝さんに、心から感謝申し上げます。また、本研修に際して2週間の不在をお許し頂いた高松赤十字病院の監崎孝一郎先生をはじめ、医局員の皆様に御礼申し上げます。

